平成20年4月25日（金）発行 No.2
横浜市立旭中学校　生徒指導専任教諭　鈴木　裕幸

『生徒指導』だより

☆　無惨な姿に心が痛い・・・。でも・・みんなで学んでいこう・・・

先日、激しい風雨の日がありました。その翌日の昇降口。いくつかの傘が柄のところからぽっきり折れていました。でも、まさかそれを『誰かがわざと壊した…』なんて思えなくて…とりあえず、傘による事故が市内で発生したのをうけ、21日(月)の朝、本校でも各学級で、事故防止を訴えました。

24日(木)。教文ホールで行われた横浜市児童生徒指導教諭協議会に出席し、5時半過ぎに学校に戻ってきました。
職員室に入っていくと「お疲れ様!」「ご苦労様でした!」の声に混じって、「鈴木先生…戻って早々申し訳ないんですけど…ちょっとこれ…見てください…」と、ある先生。手にしていたのは、ぽっきり真っ二つに折れた数本の傘。そのうち二本は、持ち主がそれを持って来たのだという。
「一件の家庭は連絡取れたんですけど、もう一件はまだです。申し訳なくて…」と、うなだれる。
その後、その傘を前に、多くの先生が言葉を失っていました。思いは募るけど、言葉にならない。

この話を聞いて、すぐに感じたことを文章にしました。これが率直な思いです。書きかえようかとも思ったのですが、言葉を選ぶと、かえって「思い」が伝わらないような気がしました。

無惨に変わり果てた自分の傘を見たとき、それを手にしたとき…つらかっただろうなぁ、その子。
あぁ、悔しい。こんな思いにさせてしまって…。数日前のあのときに、もっと何とかできたはずなのに、それをみすみす見逃してしまった。あのときに、何とかしていれば、こんな思いになる人を増やさずにすんだかもしれないのに…。なんてバカなことをしちゃったんだ。
それに・・・傘を壊す人を創り出してしまった。でも、いったいこれでこの子の心のなにが変わるのだろう…？傘を壊してすっきりしたのだろうか？今もそのまま笑っていられるだろうか？
いいや、そんなはずはない。それはあり得ない。
間違いは誰にでもある。醜い心も、いやな考えも・・・自分にもある。
だから学んでいかなくちゃいけない。お互いに。ひとつの悲しい出来事で、みんなが学べる。
責めて・・・わかって・・・許して・・・認めて・・・みんなで共に成長していかれたら幸いだ。

切り取り

この件に関して、あなたが今感じていることを言葉にしてください。未来のために。

年　　組　　番　　氏名【　　】